

令和7年度 波佐まちづくりセンターの主な取組

事業名

お米作り体験学習（田植えから収穫まで）

P

●事業実施に至った背景、目的

波佐小学校が、農業について学ぶ学習として田植えから稲刈り、収穫までの体験学習をしていたが、ここ数年前から児童の人数も減少し、地域の協力も必要となってきた。学校運営協議会でも学校と地域が一緒になった社会教育を進めていこうという中で、センターも協力し、地域と小学校が一つになった取り組みとして実施。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打合せ等)

- ・小学校とセンターとの打合せ
- ・地域の方への協力をお願い

D

●事業の概要

★田植え 実施日：5月13日（火）

場所：波佐小学校 学校田（地域の方から貸していただいている）

地域の方の協力：田植え 12人 田嚙子：4人 小学校児童：10人 全教職員・PTA 保護者

指導：JA 営農指導員2人 品種：きぬむすめ

約40人が参加し、今年は賑やかに田嚙子に合わせて約1時間植えていった。終了すると、JAの職員からお米についてお話を聞き学習した。また、昔の田植えで、「はすま、（休憩時間）に食べていた苞の葉で包んだ黒豆結びを食べた。この時のお米は、昨年育て収穫したお米で豆結びを地域の方に作っていただき食べた。

★稲刈り 実施日：10月7日（火）

場所：波佐小学校 学校田 波佐小学校児童・教職員 20人 地域協力者：3名

地域の方の協力で、手刈りと機械で刈取り作業をした。

手刈りした稲わらは、12月のしめ縄作りに活用するため、干して保存。

★新米を食べる会 実施日：11月28日（金）

場所：波佐小学校 ランチルーム 32人（児童・教職員・地域協力者）

収穫祭でお世話になった地域の方々を招待し、感謝の気持ちを述べた。

新米と豚汁と生徒たちが作ったスイーツをいただき、皆で収穫を喜んだ。地域の方も初めての招待で大変喜んでた。

C

●事業実施後の振り返り

今年度はJAの営農指導員に、米作りについての勉強会をしてもらい学習した。低学年には少し難しかったかもしれない。今までは、地域の方と収穫祭をしていなかったが、田植えから収穫祭迄を全員で出来たことは、とても良かった。地域の方も普段小学校の児童と交流する機会もあまりない中、大変良い交流の場もあった。

A

●今後の方向性

地域の方の理解と協力で田植え体験や稲刈り体験を実施した。今年度は、地域の方と収穫祭もできた。ともに収穫の喜びや食の大切さ、お米作りの大変さなどを学ぶことが出来た。

この地域の良い所は、お互いを見守りながら、地域と小学校が家族のようなつながりがある。この事を将来にわたって忘れずにいて欲しいと願いつつ、引き続き実施していきたい。色々な分野で交流を深めていきたい。

